

# 震災ボランティア派遣 FAX通信⑮

各組合・地域労連

御中

2011年7月29日



週末ボランティアもOK!

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール [ao110@kenrouren.jp](mailto:ao110@kenrouren.jp)

【発信者】事務局長 有馬美恵

## 建交労の菅野さんも行ってきました!

建交労青森県本部書記次長の菅野雅臣さんは、県労連青年連絡会の代表をしていて、全労連青年部の執行委員でもあります。今回、全労連青年部ボランティア派遣チームの一員として陸前高田に行ってきました。感想をご紹介します。



菅野さん（全労連青年部の仲間たちと）

ボランティア参加者ぞくぞく決定！高教組で2チームが、健生労組から1チームが行ってくれます。みなさん、ありがとう。ボランティア作業は8月末までです。ぜひ夏休み休暇などを利用して行ってきてください。

ボランティア参加にともなう交通費・宿泊費などは全額「県労連ボランティア派遣カンパ」から支出します。

7月23日より岩手県陸前高田市にボランティアに行ってきました。被災地に行くのは3月以来、4ヶ月ぶりです。

23日に現地の宿泊先のかめや旅館にて全労連青年部の仲間5人と合流し、陸前高田のボランティアセンターに行き、その日のボランティアのマッチングをおこない、その日の作業内容を決めました。23日は神社付近の細かい瓦礫の撤去に決まりました。現地には我々のほかに15名の人たちと向かいました。作業場所に到着すると既に100名近い方が作業をしており、女性が多数いたのにはビックリしました。私たちの班も段取りを決め、作業にあたりました。ボランティアセンターの人からは20分程度作業したら休憩を取ってくださいと言われていましたが、作業に没頭して休憩を取るのも忘れていました。

現場の人の話では8月7日に喧嘩七夕祭りが行われると聞きました。例年は何台もの山車が出て、山車をぶつけあう祭りだそうです。しかし、震災により1台の山車しか残っていないそうです。それでも、その残った1台を運行するそうです。その運行ルートの沿道には細かい瓦礫が沢山あり、見物する住民が危ないとのことで、ボランティア依頼されたそうです。そうこうしているうちに規定時間の14時が近づいたころ「ゴゴゴゴ!!!」という音が!!最初は近くの重機の音かと思いましたが、皆の携帯がいっせいに鳴り出し、その直後に立て揺れの地震が発生!周辺にいた人たちはみんな海の方角を見ました。私たちも安全を確認しながら車へと戻りラジオで確認をとりました。幸いにも津波警報は出ませんでした、震度4と聞き、驚きました。被災地では頻繁にこんな地震がおこっているのかと思うと……。

2日目の24日は陸前高田市の市内から少し離れた漁村に行きました。ボランティアの内容は津波で流されてしまった家屋の跡地を利用して一関の中学生がひまわりの花などを植えるプロジェクト「フラワーファームプロジェクト」をおこなったとのこと。しかし、その場所は未だに水道が復旧しておらず、水遣りができないとのこと。そこでボランティア依頼があったそうです。当日は全労連青年部の6人と福岡県労連から事務局長・組合員・事務局長さんの娘さんの3人の合計9人で作業にあたりました。3人が車で5分のところから水をポリ缶5個に入れて運び、そのほかの人は花壇の草取りをしました。当日は非常に暑く、みんな汗だくになりながら作業しましたが、みんな世間話や歌を歌いながら作業していました。今回のボランティアで感じたことは、市内の復興は一定進んでいると思いますが、少し離れた場所はいまだに瓦礫が撤去されておらず、今回2日目に行った漁村は海の中に瓦礫も大量に浮かんでいました。なかには流された家もありました。

8月末でボランティアを打ち切るとのことですが、現地はまだまだボランティアを必要としています。これから冬を迎えれば冬に必要なボランティアがあるとおもいます。私たちは今後被災地に何ができるのか考えていかなければいけないと強く感じました。復興までにはまだまだ時間はかかるとは思いますが、一步一步復興に向かっていて今回ボランティアに参加して強く思いました。是非みなさん8月末までに時間をつくりボランティア参加してみてください。そしてみんなで今後何ができるか共に考えましょう。